

IV-30

街路の魅力とその構成に関する考察

秋田大学 学生員 ○武藤 慎一
秋田大学 フェロー 清水浩志郎
秋田大学 正 員 木村 一裕

1. はじめに

安全で快適な街路空間への要望は、近年ますます高まりつつあると同時に、その内容も多様化してきている。街路空間に対する人々の期待は、大別すれば街路空間からさまざまな情報を入手し、これを楽しむものと、その空間内にいることで落ち着いた気分になることに分けられるのではないかと考える。前者については街路空間の情報ということについて、天空率や緑被率等の指標を用いた分析¹⁾や、画像上のドット等の変化²⁾や、情報を質的に分類した分析がみられている。本研究では街路空間の魅力について、時間経過を考慮したシーケンス景観として取り扱うものであるが、街路空間がもつ情報については、街路景観の要素に対して抱かれる「何があるのだろうか」といった期待感という人々の意識から分析している。

2. 研究の概要

本研究で取り扱う街路空間は、いくつかの小シーケンスから成るシーケンス景観である。分析にあたっては表-1の調査概要に示すように、はじめにシーケンスに対する評価をしてもらい、ついで個々の小シーケンスおよびその構成要素についての評価をしてもらった。被験者は学生24名である。評価に用いたシーケンスは表-3に示すように、5つのパターンを設定した。

表-1 調査概要

調 査 内 容	
1. シーケンスに対するイメージ調査(表3に示す形容詞対の5段階評価)	「一本の街路を歩いていると仮定して…」と教示し、イメージを抽出
2. 対象景観の調査	
1) 風景に対する評価(表3に示す形容詞対の5段階評価)	
2) 風景要素に対する評価	
① 好ましい ② 調和 ③ 落ち着き ④ 期待感 ⑤ 注目 ⑥ 印象変化(自由回答)	

表-2 調査に用いた形容詞対

No.	形 容 詞 対	No.	形 容 詞 対
①	調和 — 調和している — していない	④	広々 — こじんまり
②	落ち着きがある — にぎやかな	⑤	期待感 — 期待感
③	すっきり — ごちゃごちゃ	⑥	楽しい — 楽しくない
		⑦	好ましい — 好ましくない

表-3 シーケンスパターン

SQ①	店や看板等がいろいろ出現し、その形態等が変化していくにぎやかな街路
SQ②	街路樹がメインであり、その形態が変わっていく落ち着いた街路
SQ③	全体の雰囲気は変わっていないが、点的なものを入れた街路
SQ④	街路樹の変化が比較的少ない並木道
SQ⑤	自然物は少ないが、構成の配慮がなされている街路

〈SQ①〉



〈SQ②〉



〈SQ③〉



〈SQ④〉



〈SQ⑤〉



写真 1

3. シーケンス景観の評価

5つのシーケンスについて、その嗜好性（好き、きらい）のほかに、序論で述べた街路景観に対する期待される内容として、落ち着き感、楽しさの評価結果を図-1に示している。全体としてSQ②やSQ③が評価も高く、また落ち着きや楽し

さも高くなっている。これに類似したSQ④では落ち着きの評価は低くなっている。また商店街の景観であるSQ①とSQ⑤では、SQ⑤において落ち着き感よりも楽しさの方が高い評価となっている。嗜好性との関係では落ち着き感よりも楽しみが相関性が高くなった。

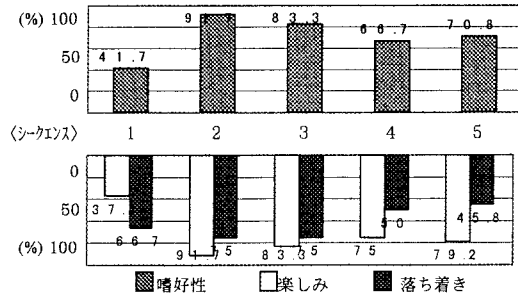


図-1 街路の魅力について

4. 景観構成要素の評価について

ここでは小シーケンスにおいて、各景観要素がどのように注目され、かつどのように評価されているのか、ということについて分析した。景観要素についての評価は表-1に示した通りである。最も評価の高かったSQ②について、景観要素の指摘率と期待度の関係について図-2に示している。街路樹に対する注目度と期待度は各シーンともに平均して高く、嗜好性もそれに伴っている。このシーケンスは与えられる情報の量の変動は少ないが、その種類や構成要素間での変動が嗜好性に大きく影響しているように思われる。

また、シーンが変化したときの印象を聞いたところ、小シーケンス1から2では「すっきりして何か物足りなくなった」と答えた人が半数以上で、小シーケンス3に移ったときに、「緑が増

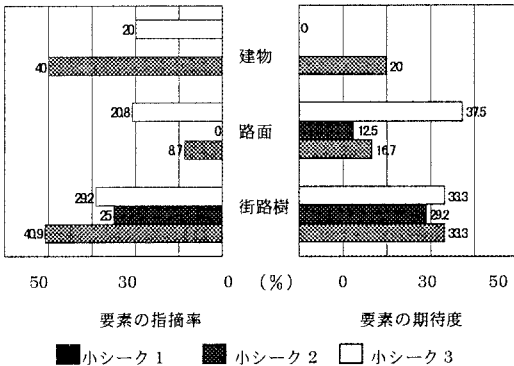


図-2 要素の指摘率とその期待度

えてやや落ち着いた」とか「緑の奥行きや暗さ等に期待感が感じられた」と答えた人が半数近くいた。全体的に見て、緑の指摘率は他の要素に比べて高く、かつ嗜好度も高いことが分かった。

5. 小シーケンスのイメージのつながり

連続した景観の嗜好性を把握する上では小シーケンスのイメージの把握が必要である。シーケンスの嗜好性は、小シーケンスのイメージとその連りの2点が重要であるとの観点から、15景観について因子分析を行い、イメージに影響している因子を抽出した。その結果を表-4に示す。分析の結果、パターン毎にイメージの変化が現れた。また、もっとも好まれたSQ②にはすべての小シーケンスに期待感が表れている。全体に嗜好度の高いシーケンスはイメージの一定したシーケンスであり、逆にイメージの一定しないシーケンスは嗜好度が低くなる傾向が見られた。

表-4 イメージ変化

パターン	抽出された形容詞		
①	シーン①-1 →	シーン①-2 →	シーン①-3
	すっきり 調和	期待感 にぎやか	調和 広々
②	シーン②-1 →	シーン②-2 →	シーン②-3
	期待感 すっきり	期待感 調和	期待感 すっきり
③	シーン③-1 →	シーン③-2 →	シーン③-3
	調和 期待感	すっきり 広々	期待感 すっきり
④	シーン④-1 →	シーン④-2 →	シーン④-3
	調和 すっきり	すっきり 期待感	すっきり 広々
⑤	シーン⑤-1 →	シーン⑤-2 →	シーン⑤-3
	期待感 広々	調和 すっきり	調和 すっきり

シーケンスの嗜好性

6. まとめ

本研究では、シーケンス景観の魅力について、楽しさや落ち着き感という2つの観点から分析を行った。とくに、街路景観の楽しさについては、その景観や景観要素から受ける期待感が嗜好性と影響することがうかがえた。今後の課題としてはイメージのつながりや変動のしかたについてより詳細に分析したいと考えている。

〈参考文献〉

- 1) 三橋正邦他:「動画像による都市景観の解析」日本建築学会大会学術講演梗概集、P.69-70,1993
- 2) 後藤聡他:「変化からみた景観分析」、日本建築学会大会学術講演梗概集、P.121-122,1995